

○スポーツ振興のためのスポーツ放送の重要性

ユニバーサルアクセス権とスポーツ文化振興の視点の必要性

■提言先：政府、放送事業者

トップアスリートは、メディアに取り上げられることで商業的価値があがり、スポーツ競技以外の副収入をあげていることから、スポーツ放送がトップアスリートを支えているといえる。またスポーツ放送は、国民のスポーツ欲求にこたえ、スポーツ愛好者を育てるなど、スポーツの普及にも大きな貢献をしている。

スポーツ振興にとって重要なスポーツ放送であるが、オリンピックやサッカーワールドカップのような国民的に人気のあるスポーツイベントは、放送事業者が主催者に対して放送権料を支払う構造にあるため、視聴料を課金できる有料放送事業者が人気のあるスポーツイベントを独占的に放送する可能性がある。

英国ではいち早く、ユニバーサルアクセス権が確立され、人気の高いスポーツイベントが一部の視聴料を支払った視聴者だけにしか観られなくなることを規制している。プロジェクト会議の有識者からは、わが国においても、一般国民のスポーツを見る権利を保護し、広くスポーツ振興を図る上で、日本独自のユニバーサルアクセス権について今後の検討が必要であるとの意見がなされた。

有料テレビ放送による独占が懸念される人気イベントがあるいっぽうで、視聴率の低いスポーツは地上波での放送が難しく、有料放送に頼らざるを得ない。今回のヒアリング調査の対象となったトップレベルのスポーツクラブの多くは視聴率が低いスポーツであったが、こうした市場のメカニズムは理解しつつも、スポーツ文化振興の観点から、特に公共放送には放送することを期待する意見が寄せられた。もちろん、視聴率が見込めないスポーツは、すこしでも視聴者数を増やすための経営努力を行うことが前提であることは言及するまでもない。また、公共放送のNHKであっても、国民から徴収した受信料を使用して、わずかな一部の視聴者のためにマイナースポーツを放送することに対するためらいがあることも理解できる。

情報技術（IT）の急速な発展に伴い、スポーツ放送は大きく変わりつつある。この影響はデジタル化によるテレビ・ラジオの多チャンネル化にとどまるものではない。インターネットの登場は産業革命に匹敵する影響を市民生活に与えているといわれ、テレビ・ラジオに限られていたスポーツ中継の選択肢を格段に広げている。既存メディアの進化も見逃せない。例えば、ラジオは音声だけでなく映像も扱えるようになってきている。2011年からはじまるテレビ放送の全面的なデジタル化は県域放送の重要性をかつてないほどに高め、それゆえに地域に根ざしたスポーツ放送への期待が高まることが予想される。

これまでもNHKは視聴率に左右されることなく、極めて多岐にわたるスポーツにおいて、全日本選手権の決勝戦などの放送をしてきている。こうした努力は評価しつつも、年一回程度の全国放送だけでは、地域の要望を満たすことができないのは明白である。トップレベルスポーツクラブは、スポー

ツの種類を問わず、それぞれの地域における公共財とみなすことができる。テレビ放送された場合の視聴者は、そのスポーツの愛好家だけではなく、地域住民全般に広がることが期待される。

その潜在需要はサッカーJリーグの2部、J2にみることができる。J2のクラブは比較的中小規模のまちをホームタウンとしており、競技レベルと市場規模から全国放送の対象となるのは極めて難しい。しかしながら、県域放送の数は決して少なくない。ホームクラブとアウェイクラブの双方のNHKローカル局によるインターローカル放送もたびたび行なわれている。同じことは、Jリーグクラブ以外のトップレベルスポーツクラブでも十分に可能なはずである。ただし、試合中継番組を制作するためには相応の制作費が必要とされ、ローカル放送では制作費の捻出が難しいことも課題ではある。

こうした状況をふまえ、プロジェクト会議の有識者からは、国内最高レベルの試合については、スポーツ文化の振興の視点から toto の助成などにより映像化し、これを放送局へ提供するなり、インターネットメディア上で配信するなり、さまざまな展開が可能となる仕組みを検討すべきであるという意見がなされた。

